

横浜市大

最先端技術で研究開発

疾病予防や患者負担減へ

横浜市大は二十六日、がんや生活習慣病対策に最先端の技術を結集した九件の研究開発プロジェクトを始動した。と発表した。「乳がんの初期診断」の実用化に向けた研究や、癌がんや転移に関与していると考えられる「がん幹細胞」の特定と治療法の研究、エイズワクチンの開発などが進められる。実用化されれば全国初となる技術も多く、疾病予防や患者の負担軽減が期待される。

(佐藤 英仁)

実用化へ9件計画始動

「がんの制圧(予防、がん剤の選別を容易にする。二〇〇八年春にも実用化される。

「がん幹細胞を標的とした革新的がん治療法の開発」は、今後二年以内で増殖しないワクチンの開発を展開。〇八年に中国とインドで臨床試験を行う予定。

「がん幹細胞」を特定する研究。再発を制御する治療法も開発する。

「がん幹細胞」を特定する研究。再発を制御する治療法も開発する。

「がん幹細胞」を特定する研究。再発を制御する治療法も開発する。

「がん幹細胞」を特定する研究。再発を制御する治療法も開発する。

「先端医科学研究センター」を開設。〇七年度に研究開発プロジェクトを学内で公募したところ、今回の九件を含む約四十件の応募があったという。

「」を開設。〇七年度に研究開発プロジェクトを学内で公募したところ、今回の九件を含む約四十件の応募があったという。